

平成29年度 青森市自動車運送事業運営審議会 概要

【開催日時】平成29年10月23日（月） 午前10時00分～

【場 所】青森市役所 3階 福利厚生室

【出席委員】高山貢会長、柳谷章二副会長、小豆畑緑委員、大櫛寛之委員、奥谷進委員、小野寺淳委員、斎藤憲雄委員、福井正樹委員、藤林博委員

【事務局】中川覚公営企業管理者企業局長、多田弘仁交通部長、赤坂寛交通部理事、今国弘交通部管理課長、成田清管理課主幹、千葉宏樹管理課主幹

【会議概要】

審議会の開催に先立ち、中川覚公営企業管理者企業局長の挨拶の後、会議に入った。

(1) 平成28年度決算概要について

平成28年度青森市自動車運送事業会計決算総括表を基に多田交通部長より説明。
以下質疑応答等。

(委員) 平成28年度の定年退職者は10人となっているが、今後も増えていくのか。

(事務局) ここ数年は3・4名程度で推移いたしますが、その後再び二桁の定年退職者の年度も予定されています。

(委員) 黒字にするために、公営企業として収益を上げることに努めるべきではないか。未活用の土地を売却し財源を確保することなど、職員一体となって黒字化に取り組んでいただきたい。

(委員) 決算について分析した様々な指標が示されているが、総括すると何を課題として認識しているか。

(事務局) 経費面では、7割を占める人件費をいかに抑えるかが課題と思います。

また、収入面ではもっとPRして利用者を増やしていくことが必要と考えています。

バスのサービスは、安全・安心はもちろんですが、やはりバスの路線を市民のニーズに合わせて再編していくことが必要になってきますので、その点を今後検討していきたいと考えております。

(委員) 利用者が少ない路線は小型バスを走らせるなどの工夫が必要だと思う。

お客さまサービスという点では、定時運行が非常に大事だと思う。

経路のどこかで時間調整する場所を確保するなど工夫すれば出来ることではないだろうか。

(2) 経営改善の取組みについて

「青森市交通事業経営改善計画～チャレンジプラン 2017～骨子案」について赤坂理事より説明。

以下、質疑応答等。

(委員) 骨子案概要版18頁に「人件費の抑制が避けられない状況となっており、民間活力の活用を推進」とあるが、民間事業者の中でも運転士の確保が難しい状況で、更に民間委託台数を増やすのは難しいのではないかと。

また、正職員の採用を再開する際に、現在所属している嘱託職員を正職員に採用すると、平均年齢を考慮すれば、人件費の増加に繋がるのではないかと。

労働条件の見直しも含めて検討していかないと、運転士の若年化に続かないのではないかと考える。

(事務局) 免許保有者が減っている中、交通部と民間で協調しなければならない状況がいずれやってくると考えている。

例えば、冬期間に余剰人員がある観光バス会社へ冬期間のみの路線委託をすとか様々な実験を3年間で実施して参りたい。

賃金の部分についてもどうあるべきか、あわせて検討して参る。

(委員) 同頁の「交通部の組織のあり方も含めた抜本的検討」というのはどういう意味なのか。

(事務局) 今の交通部の体制について、抜本的な見直し、検討を意味しています。

(委員) ダイヤのあり方や乗り継ぎ等の運行形態を含め、より高度な部分で今後の計画を具体的に進めていただきたい。

(委員) 資料を見ると、公営バス事業を廃止している都市が複数あるが、その事情について調査してはどうか。

女性職員は職場を活性化するので、積極的に女性運転士を採用したらどうか。

また、労務体制は抜本的に変えなければいけないと思う。お客さまにしてみれば正規、非正規もどちらも変わらない。非正規職員にも当たり前の時間給を支給すれば、いい職場になると思う。

(委員) 子どもがいる世代は土日働きたくない、ある程度の年齢になった人は土日働けるとかをマッチングさせるなど、柔軟性をもって労務体系を考える時代になってきたと思う。

(委員) 青森に豪華客船がたくさん来ているので、それに対応したルートを運行するとかもっと努力していかないと黒字化は難しいと思う。

(委員) 今回の資料はこれまで捉え切れていない利用者の動向を分析しており、非常に分かり易かった。

観光との連携については、路線図を分かり易くすることや、弘前市などの他都市事例を参考に取組んでいただきたい。

市役所や商工会議所が青森駅前に移転し、駅前の様相が今までと違ってくると思われるので、その対応も必要と考える。

高齢者が県病や市民病院へ通院する路線も見直しが必要だろう。

さらに、青い森鉄道との連携をはじめとして、他の交通機関との乗り継ぎや料金を検討していくことも必要ではないか。

また、郊外の大学から学生が夜に中心街へ行きづらいバスの時間帯になっているので、街の活性化のためにも検討していただきたい。

(委員) 乗り継ぎのためにはＩＣカードの導入が必要であると考えます。

乗り継ぎがスムーズにでき、手続きが簡素化される。

百年続くバスのあり方のために、ぜひ頑張ってください。

(委員) 今後のスケジュールはどうなっていますか。

(事務局) 今回のご提案と、後日実施するパブリックコメントの結果を基に肉付けしたものを、次回２月に開催予定の本審議会に本案としてお示しいたします。